



吉田ひかり
(山形六中出身)

「三度目の正直」

山形県立保健医療大学 保健医療学部 看護学科 合格

私は推薦で2度不合格になり3度目の前期試験で合格することができました。前期試験だけでなく推薦でも共通テストの点数が必要だったので、勉強時間を記録するアプリを使うなど工夫して勉強に励みました。また、面接と小論文は推薦の時から何度も先生に指導してもらいました。前期試験直前には推薦で不合格だった理由を自分なりに考え、これまでの小論文と面接対策を基本から見直しました。3年生の模試の結果はE判定が続き、共通テスト本番の自己採点でも厳しい判定でしたが、最後まで諦めずやり続けたことが合格に繋がったと思います。



関本 和奏
(山形三中出身)

「受験対策は計画的に」

日本大学 法学部 法律学科 合格

私が大学受験を通して重要だと感じたことを3つ挙げます。1つ目は普段の授業を大切にすることで。基礎学力到達度テストは基礎問題を中心に構成されるので、普段の授業に真剣な態度で臨みました。2つ目は工夫した勉強方法です。苦手科目の英語のリスニングと読解の教材を毎日欠かさず学習し、得意科目の倫理・政経では過去問題と授業での教材に徹底的に取り組みました。3つ目は自分が選択した受験方式を正確に理解することです。説明会やオープンキャンパスに参加し、ホームページからの情報を正確に入手し、不明な点は進路指導の先生に相談するようにしました。皆さんの周りには友人、先生方、家族など支えてくれる人がたくさんいます。そのような人達の存在を忘れずに最後まで頑張ってください。



田宮 俊祐
(河北中出身)

「私が通った道」

日本大学 生物資源科学部 海洋生物学科 合格

私が志望校を決めたのは3年次の8月でした。私は目標とする大学のオープンキャンパスに実際に行くことで、進路を決める大きな一歩になりました。私が努力したことは、テストと提出物で手を抜かなかったことです。評定を上げることは難しいと思われがちですが、視点を変えれば案外難しいことではなく、課題にしっかりと取り組み、期限に遅れることなく確実に提出すること、テストの点数を1点でも高く取るために、人よりもほんの少しだけでも勉強することです。最後に、日本大学を目指している皆さん、たくさん悩み、自分で選んだ道を信じて頑張ることが大切です。勉強も部活動も頑張ってください。



ミラー 然
(山大附中出身)

「目標実現のため」

早稲田大学 教育学部 社会科地理歴史専修 合格

私は男子テニス部に所属し、1年次から学習と部活動の両立に努めてきました。学習面では、授業間の休み時間で受けた授業の復習をすること、わからないことをそのままにしないこと、模擬試験や基礎学力到達度テストにむけてしっかり対策すること、特にこの3つのポイントを意識して取り組みました。学習と部活動の両立を果たすには、限られた時間を最大限に活用し、効果的な学習方法を見つけることが大切です。私の経験から得られた教訓は、「時間管理と積極的な学びの姿勢が成功の要因である」ということです。これらを意識し、柔軟で計画的なアプローチを心がけることで、学習と部活動の両立が実現可能になると思います。進路実現のために頑張ってください。



菅井 颯
(鶴岡五中出身)

「両立するために」

法政大学 経営学部 経営学科 合格

私は「甲子園で勝利する」という目標を持って入学し、エースナンバーを取るために必死に練習しました。2年次に進路を考え、大学では野球を続けず勉強しようと思い、毎日の授業を集中して受けました。3年次には、県大会を勝ち抜き甲子園大会に出場しました。しかし甲子園で勝利することができず、その悔しい思いがきっかけで、大学で野球を続けたいと強く考えるようになりました。大学の試験は面接と小論文で、面接練習では思った以上に相手へ伝える難しさに気づきました。多くの先生や仲間と協力を受け、人の意見を聞き、自分なりの言葉にし、本番では上手く受け答えができました。大学では野球も学業も両立し、将来に繋がっていきたくです。



島田 紗英
(山形四中出身)

「夢を実現するために」

日本大学 医学部 附属看護専門学校 合格

私には幼少より看護師になるという夢がありました。2年次に、日本大学に医学部附属の看護専門学校があることを知り、医学部と同じキャンパスで、最前線の医療を学べることに魅力を感じ、入学したいと強く思いました。私は部活動の練習があるため、早朝に勉強し、自作の問題を作って解答し、提出物の期日を守ることを心がけました。部活動があるから勉強ができないのではなく、部活動に入っていたからこそ自分なりに考え、部活動と勉強の両立ができたのだと思います。推薦試験の面接に向けて徹底して練習しました。自分の興味や将来何をしたいのかを分析して、早い段階で進路を決めることが大事だと思います。



結城 陽斗
(山形十中出身)

「どんなこともプラスに」

山形医療技術専門学校 作業療法学科 合格

私は将来「誰かを支える職業に就きたい」と考えていました。3年生の時に部活動の試合で骨折し、治療を担当する理学療法士の方からリハビリのプログラムの立て方や着実に取り組むことの大切さを教えてもらいました。そして理学療法士よりも作業療法士の方が自分に合うと思いました。私は専門学校のオープンキャンパスに参加し、先生方とのコミュニケーションをとりながら能力を高める必要を感じました。部活動で帰りが遅いため、日頃の授業に集中し、理解するよう努めました。最後に、色々な事に興味をもち、自分から行動することでやりたいたことがみえてくると思います。目標に向かって頑張ってください。



高橋 空桜
(東根一中出身)

「自分の強みを生かす」

日本の宿 古窯 内定

私は将来「親孝行をしたい」「自立したい」と考え、就職を希望しました。校内就職セミナーの自己分析で「人と関わること」を仕事と考え、就職担当の先生から外部セミナーの話をいただき、参加しました。企業の方の話を聞き、旅館の接客業の求人票を比較し自分に合った就職先を見つけられました。校内セミナーでは「履歴書の書き方」や「面接練習」などのサポートを受け、「模擬面接」で、本校の保護者会面接官の方から自分の印象や良い点、直すべき点の指摘を受け自信をもって面接を受けました。私は就職活動を通して、努力したことが後々「自分の強み」になることを実感しました。日頃から感謝の気持ちを忘れず、なりたい自分になれるよう頑張ってください。



新しい未来をきぎづく

NIHON UNIVERSITY YAMAGATA SENIOR HIGH SCHOOL 2024

Boys, Be Ambitious!

日本大学山形高等学校 自主創造

教育方針

〈知育〉自ら真剣に学習し、知識を高め、深い教養を身につけるよう努める。
〈徳育〉豊かな情操と信愛の心に満ちた品性ある人格を養う。
〈体育〉心身を鍛錬し、いかなる試練にも耐え得る強い精神力と身体を養う。

新しい未来をきぎづく

Boys, be ambitious 志高く未来へ向かって



校長 渡部 正信

本校は、1958年に山形学園山形第一高等学校として創立され、1962年に日本大学の附属高校となり現在に至っています。卒業生は、39,000名を超え県内はもとより国内外各界各方面で活躍しています。日本大学の附属高校として、教育の理念である「自主創造」のもと「自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく」生徒の育成に努め、知育・徳育・体育の調和のとれた教育を行っています。また、「Boys, be ambitious」で始まる校歌には生徒たちが、常に高い目標を持ち、その目標の達成のために何事にも積極的に取り組み、進むべき道を自ら切り開いていってほしいという願いがこめられています。本校で、皆さんが抱く志に向かって学び活動し、自分の可能性を広げていきましょう。

先輩方からのメッセージ



秋葉 悠樹
(山形九中出身)

「合格できた要因」

新潟大学 経済科学部 総合経済学科 合格

私は初め、質よりも量を意識しました。なぜなら、量をこなさなければ自分にとって最も効果のある勉強法は見つけれないと思ったからです。また、そうすることで勉強する体力も養われていきました。加えて、私はどんな環境でも集中できるよう、一つの決めた場所のみで勉強するのではなく図書室や学習室など様々な場所で勉強するようにしました。こうすることにより初めて行く試験会場でもいつも通りの実力を発揮できました。また、私は得意科目の確立を一番初めに行いました。得意科目を一つ作っておくだけでその後の勉強効率は大きく変わります。本校には頼れる先生方がいるので相談してみてください。皆さんの進路実現を応援しています。



大宮 遥杜
(山形二中出身)

「受験で重要なこと」

東京海洋大学 海洋生命科学部 海洋生物資源学科 合格

私が大学受験を通して重要だと考えたことは、PDCAサイクルを徹底して行うことです。私はサイクルを繰り返すごとに自分に合った勉強法を見つけることができました。また、取りうる最低点数を自分の本当の実力だと考えることも重要です。試験本番は普段の実力を出せないことがほとんどです。取りうる最低点数でも合格できるくらいの実力を身につける。他にも、調子が悪いときの点数を普段の実力に近い近づけることも大切です。本番で実力が出せないことを考えることは辛いですが、夢の実現のために大切だと考えて頑張る直視しました。最後に、受験は一人で挑むものではなかったです。先生、友人、家族が応援してくれたことで合格することができました。